



Association of malnutrition and high bleeding risk with long-term prognosis in patients with acute coronary syndrome following percutaneous coronary intervention

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2024-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 形岡, 洋光 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/0002000116

論文審査の結果の要旨

急性冠症候群に対する経皮的冠動脈インターベンション（PCI）後の予後と栄養障害および出血リスクとの関連は明らかにされていない。

そこで、申請者らは、2019年1月～2022年3月の期間に、浜松医科大学医学部附属病院において急性冠症候群と診断され、PCIを施行された275人の患者のうち、データの欠損、血液透析施行の患者を除外した217人について、後ろ向きに統計的な検討を行った。栄養障害は、入院初期の血液中のアルブミン値、総コレステロール値、リンパ球数から算出したControlling Nutritional Statusスコアにより2群に分けた。出血リスクは、日本版高出血リスク基準により判定した。患者背景について、年齢、糖尿病、慢性腎臓病、心不全を調整変数とした逆確率重み推定法を用いて調整を行った。調整後の全生存期間と主要心血管イベントについて、 Kaplan-Meier 曲線を作成し、検討を行った。本研究は浜松医科大学生命科学・医学系研究倫理委員会の承認を得て行われた。（承認番号 23-128）

主要心血管イベントの発症率、全死亡率について、栄養障害の程度と高出血リスクの有無により対象患者を4群に分け、主要心血管イベントの発症率を検討したところ、「中等度・重度栄養障害群」では、出血リスクの有無に関わらず治療後早期から心血管イベントの発症率が高いことが示された。これまでの出血リスクへの配慮と同時に、栄養障害への介入、また栄養障害のリスクを考慮した対応が重要であると考えられる。

審査委員会では、PCI後の予後について、初めて栄養障害と出血リスクの両者を同時に検討し、栄養障害の重要性を明らかにしたことを高く評価した。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者	主査	尾島 俊之		
	副査	才津 浩智	副査	安田 日出夫